

2 共通教育・連携教育

1) 教育活動

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
スタートアップ演習 ◎原 俊彦 武邑 光裕 齋藤 利明 酒井 正幸 杉 哲夫 吉田 和夫 張 浦華 羽深 久夫 細谷 多聞 矢部 和夫 大淵 一博 河野 總子 坂倉 恵美子 樋之津 淳子 宮崎 みち子 守村 洋 菊地 ひろみ 高室 典子 藤井 瑞恵 保田 玲子 渡邊 由加利	演習 60時間	1年次 前期	「デザインと看護の連携」をメインテーマに、大講義室での合同講義や小グループ編成によるプロジェクト企画立案作業を通じ、文献講読、図書館の活用、レポート・論文作成、グループ討論など、主体的に勉学・研究を進めるための基礎的学習法、課題解決の手法などを習得する。4年間の学生生活や将来の職業生活への展望を持ってもらうためのコア科目。
哲学と倫理 ★坂井 昭宏	講義 30時間	1年次 前期	「正義と悪」、「生と死」、「戦争と平和」、「環境と開発」など、我々が直面するさまざまな問題を例に、代表的な哲学者の考え方について学ぶとともに、古代ギリシャやキリスト教などの代表的な倫理思想を概観することにより、「人間のあり方」や「生命の尊さ」といった倫理学の基礎を習得する。
環境を考える 矢部 和夫	講義 30時間	1年次 前期	地球環境問題の根源となっているのは、都市領域が人間の生存環境を作る自然領域を蚕食していったことである。また、地球は地域の集合体であると考えられ、その保全はそれぞれの地域で環境を保全することで達成される。このような視点から、地域環境保全の意義や地球環境の諸問題を取り上げ、その対策について、人間の暮らし、文化との関連で考える。

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
人間関係を考える ★椿 武愛子	講義 30時間	1年次 前期	挨拶から始まる対人関係と常識的なコミュニケーションが望まれているにもかかわらず、なかなかうまく表現できない人が多いといわれている。同じ職場に長く勤務できないのは、仕事がいやだからではなく、人間関係のトラブルからが多い。我々の日常生活は、家庭、学校、職場などを中心として営まれている。そのいずれにも、必ず他者とかわらなければならない。そのためにまず、相手を知り、相手を認めることがいかに大切かを知り、コミュニケーションを上手にとるため、そして楽しい生き方をするための人間関係をつくることを目的とする。
現代社会と家族 原 俊彦	講義 30時間	1年次 前期	日常当たり前の存在のように考えられがちな家族は、その時代により、社会により、また個人によって、その意味や位置付けが異なる。現代においては、社会構造の複雑化、グローバル化等が進んでおり、家族のあり方や個人と家族のかかわりも大きく変化している。ここでは、現代の社会的な問題と、家族・地域社会の関係について学び、日本の家族が抱える課題について考察する。
札幌を学ぶ 原 俊彦	講義 30時間	1年次 前期	さまざまな分野で活躍している方をゲストスピーカーとしてお招きし、札幌の地域特性や、道都としての札幌と北海道各地の関係について、お話を聞きしともに考える。科目担当の専任教員は、ゲストスピーカーの紹介、学生への情報提供と評価を担当する。
英語 I A ★大野 拓恵 ★白土 淳子 ★水島 梨紗 ★亘理 陽一	演習 30時間	1年次 前期	高校までに習得した英語の基礎的な読解力をさらに発展させることを目標とする。ここでは様々なトピックに関する比較的平易な英文を読みながら、英文読解力、語彙力の向上を目指す。進度によっては、英文の新聞・雑誌記事などを副教材とし英語力の更なるレベルアップをはかる。
英語 I B 松井 美穂 ★大野 拓恵 ★白土 淳子 ★向井 千和子	演習 30時間	1年次 前期	高校までに習得した文法を再確認するとともに、英文の構造を理解しながら、英語でコミュニケーションをするために必要な作文力を身に付ける。ここでは一定の長文（前期ではパラグラフ程度の長さの文）を表現できるレベルの英作文力の習得を目標とする。
英語 I C ★マツダヴァ セザインジ ★山田 パトリシア	演習 30時間	1年次 前期	英語による口頭でのコミュニケーション能力の基礎習得を目標とする。伝えたいことを正確に英語で表現する力を身に付けるとともに、英語で自分の意見を発信する能力を養う。CD等の教材を使用し、リスニング力の向上に努めながら、(日常の英会話で必要な表現力についても学ぶ一方、) 英語でのプレゼンテーション能力を身に付けることを主たる目的とする。
日本語表現法 ★千葉 孝一	演習 30時間	1年次 前期	さまざまな事例を通じ、適切な日本語表現について正しく理解するとともに、自分の気持ちや考えを相手に的確にわかりやすく伝える言語表現力や文章力を習得する。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
基礎カウンセリング ★村田 忠良	演習 30時間	1年次 前期	現代社会の混乱の要因は“人間関係失調”にあると考えられる。看護学の根底に、人間学に基づくカウンセリング学を必須とすることは勿論であるが、いわゆるカウンセリングマインドは豊かな人間性を基礎とする芸術性を高めるためにも不可欠のものである。人間学的カウンセリングの考察を深めて行きたい。
情報リテラシー I ◎原 俊彦 ★畑中 勝守	演習 30時間	1年次 前期	これから大学で勉強をしてゆく上でも、また社会に出て働く上でもパーソナルコンピュータを日常のコミュニケーション・ツールとして自由自在に使いこなすことが求められます。このため情報リテラシー I ではコンピュータの仕組みや操作方法、データの保存方法などについて学ぶとともに日常業務に不可欠なワープロ・表計算・プレゼンテーションなどのアプリケーション操作の基礎や自在に使いこなすための工夫・テクニックについて学びます。
宗教と思想 ★堀 雅彦	講義 30時間	1年次 後期	世界のさまざまな地域にある多様な社会を理解するには、その背景となる宗教についての知識が不可欠である。日本人の場合も「神道」や「仏教」の影響は無視できない。こうしたことから、キリスト教やイスラームなどさまざまな宗教と、そこに根ざした社会の特徴について学び、宗教と人間の関係について理解を深める。
芸術と文化 ★望月 澄人	講義 30時間	1年次 後期	「人と芸術」とのかかわりについて学び、考察する。さまざまな芸術文化活動の事例を通して、「美とは何か」、「芸術とは何か」を探求する。また、絵画や彫刻をはじめとするさまざまな芸術作品や著名な作者を通して、芸術が社会や人間に与える影響についても考察する。
心のしくみ ★橋本 道子	講義 30時間	1年次 後期	日常生活行動に見られる人間の行動を理解するに当たって、それらの行動をコントロールしているさまざまなシステムや現象について、心理学的に理解する。また、人間の心を科学的に研究した知見と現代心理学の各分野を概観し、人間の心と行動についての基礎を学ぶ。
体のしくみ 田中 敏明	講義 30時間	1年次 後期	人間の体のしくみについて運動動作を中心に学習し、ヒトの正常状態について学ぶ。具体的には、正常な身体運動を運動学的分析の視点から考察する。また、筋や関節が運動動作にどのようにかかわっているかについて、生体の構造と機能や、運動・感覚器官との関連から理解を深める。 到達目標 1. 生体の構造と機能を運動学的観点から理解する。 2. 身体運動を理解するための運動学的分析方法を説明できる。 3. 動作分析方法について説明できる。 4. 歩行、姿勢に関して運動学的な見方を説明できる。 5. 体表解剖の基礎を理解する。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
現代社会と経済 ★倉田 健児	講義 30時間	1年次 後期	現代社会のさまざまな経済活動を理解するために、経済学や経営学の基本的な知識を習得する。また、身近な経済トピックスなどを通じて、経済のグローバル化、情報化の現状を概観する。具体的には、社会の経済主体の中心である企業が社会的な環境意識の高まりの中で構築を求められた「環境マネジメントシステム」と、その基となった考え方に焦点をあてる。このような考え方はどのような背景の下に生まれ、どのような経緯を経て社会の中で広く共有されるに至っているのだろうか。環境マネジメントシステムという考え方を制度として具体化したものの一つが、国際標準化機構（ISO）が策定した国際規格ISO14001といえる。具体的な制度であるISO14001の、制度としての解説は世に溢れているが、その基となった考え方に関して言及がなされることは、殆どといっていいほどない。本講義では、この環境マネジメントシステムという考え方に着目し、これが社会の中でどのように生まれ、広がり、そしてISO14001という国際規格になったのかを概説する。その上で、このような考え方が、これからの社会の中でどのような意味を持ち、また、どのような役割を果たしていくかを展望する。
統計の世界 原 俊彦	講義 30時間	1年次 後期	さまざまなデータの分析を行うための基礎となる統計学的な考え方や基本的な手法を理解・習得することを目標とする。このため、表計算ソフトを用いてデータを加工し、必要な情報を採り出すための簡単な統計処理方法を学ぶ。また、データに基づいて物事を考える力を養う。
英語ⅡA 松井 美穂 ★白土 淳子 ★水島 梨紗 ★亘理 陽一	演習 30時間	1年次 後期	「英語ⅠA」で培った読解力をさらにレベルアップし、アカデミック・スタディに必要な英文読解力の充実を目指す。さまざまな英文について、正確かつ確に内容を理解する訓練を行うとともに、平易な長文の大意を短時間で把握する速読、パラグラフ・リーディングの練習も行う。また、併せて辞書を使用せずに一定レベルの英文を読み取れる語彙力も身に付ける。
英語ⅡB ★大野 拓恵 ★白土 淳子 ★向井 千和子	演習 30時間	1年次 後期	「英語ⅠB」で培った作文力をもとに、英語で自分の考えや意見を論理的に表現できる力や研究レポート等を英語で表現できる力を身に付ける。英文の文章構成力を習得し、最終的にはエッセイ・ライティングレベルの長文を書く技術を身に付けることを目指す。
英語ⅡC ★マツダヴァ セヴァンジ ★山田 パトリシア	演習 30時間	1年次 後期	「英語ⅠC」で培ったスピーキング力、リスニング力、プレゼンテーション能力をさらに向上させ、一定レベルの内容を英語で受信、発信する力を養う。ネイティブの会話や説明内容を正確に理解できるように、CD等の教材を活用し、リスニング力を身に付けるとともに、英語で自らの考えや意見を論理的に発信できることを目指す。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
プレゼンテーション ◎吉田 和夫 齋藤 利明 原 俊彦	演習 30時間	1年次 後期	今日の社会では、文書・画像・音声などさまざまな表現手段を組み合わせ、情報を効果的に伝達することが重要になっている。ここでは、情報を伝達する相手や目的に合った情報の収集や編集方法を学ぶとともに、プレゼンテーション用のソフトを活用し、多様な表現手段と説得力あるプレゼンテーション技術を習得する。
対人コミュニケーション ★町田 佳世子	演習 30時間	1年次 後期	私たちはコミュニケーションなしに社会生活を送ることはできない。コミュニケーションの仕組みを知ることは、よりよいコミュニケーションの担い手への第一歩である。この授業では、心理学、社会学、言語学、社会心理学などの研究成果を基に、コミュニケーションという現象にアプローチすることを試みる。また対人関係におけるコミュニケーション能力を高めるために、円滑なコミュニケーションを行うための基礎能力を養う。
手話 ★佐々木 大介	演習 30時間	1年次 後期	このクラスでは、実技指導などを通し、日本人ろう者のコミュニケーション手段の1つである「日本手話」の基礎を学びます。また、ろう者及びろうをめぐる問題についても考えてみたいと思います。
情報リテラシーⅡ ◎原 俊彦 ★岩崎 日出夫	演習 30時間	1年次 後期	これから大学で勉強をしてゆく上でも、また社会に出て働く上でもパーソナルコンピュータを日常のコミュニケーション・ツールとして自由自在に使いこなすことが求められます。このため情報リテラシーⅡでは、インターネットを通じ、さまざまなデータベースから情報を的確に収集・検索する方法を学ぶとともに、情報の加工やホームページの作成などを通じ、自ら情報発信する技術を身に付けます。またセキュリティの問題や個人情報の扱い方などについても学びます。

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料